

卵殻60%使用バイオプラ

産業廃棄物から開発

産業廃棄物の卵殻を金の卵へ。サムライトレイディング（埼玉県桶川市、桜井裕也社長、048・789・0808）は、卵殻を60%使用したバイオマスプラスチック「PLASHELL（プラシエル）」を開発した。価格は従来のプラスチックと同程度。埼玉県発のバイオプラとして「エコ玉プロジェクト」も立ち上げ、バイオプラの普及促進を図る。（さいたま・石井菜）

サムライトレイディング

新規設備が不要
処理される卵殻を粉末状にし、ポリプロピレンとポリプロピレンで構成が60%のプラスチック成。産業廃棄物としてペレットとする。



並みの硬度を備え、屈たど発表した。情報端末半径1ミリの折り曲げにも耐える透明アラデイスプレーの最表層

▲開発した透明アラミドフィルムは、折り畳み式ディスプレイなど用途を想定（サンプル）

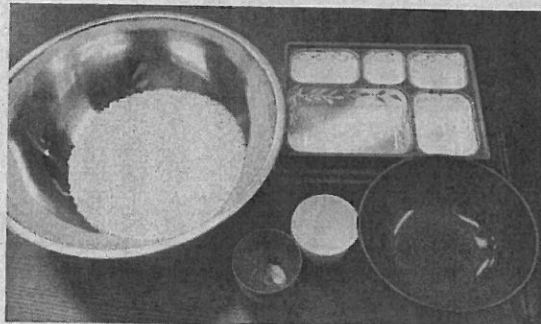
主としての使用を主に想定。ガラスと同様に傷が付きにくく、デザイン性の高いディスプレイの実現につながられる。透明回路基板や透明太陽電池などの用途も見込み、数年後の実用化を目指す。同社の既存製品で、データバックアップ用の磁気テープなどの素材として使われている

埼玉発プロジェクト促進

プラスチック成形加工メーカーが持つ射出成形機など既存設備をそのまま利用できるため、新たなコストの負担なく導入できるのが特徴。既に原料の販売は始めており、年間1万2000トの生産が可能。

改良を推進

プラシエルの使用用途は、使い捨ての商品や箸、弁当箱など。同社は関東圏内の割卵業者や樹脂加工メーカーなどと協力して事業を行う。今後は卵殻の割合を高めたり、生分解性を高めるなど改良を進めていく。



「エコ玉プロジェクト」を立ち上げた。4月以降、本格始動する。サムライトレイディングは食品や食品添加物の輸出、研究開発を手がける。売上高は非公開。

連携強化

同プロジェクトには公開。

技術により無色透明にした。

この透明アラミドフィルムは表面に専用のコーティングを施すことで、超高硬度となる鉛筆硬度9Hを達成。屈曲半径1ミリの条件で屈曲試験を100万回繰り返しても、折り曲げ部に線が入ったり破断したりしないことを確認した。

銅品需要が18年度見込み比0・5%増の82万2000トになるとの見通しを発表した。主要品種の銅条は、自動車の電装品向けが増える予想。足元が停滞する半導体向けもIoT（モノのインターネット）の進展や車の電装化などを受け、19年度後半に向けて需要が回復すると予測する。

1を占める銅条は同0・3%増の27万1100トと、ほぼ前年度並みとした。フル稼働が続き国内の生産能力に若干のゆとりが生まれ、これまで抑え気味だった輸出品の生産が増えるとみている。

エココン向けが主体の銅管は同0・3%減の11万2900トと微減予想だが、前年度に前年の年を下回った。

同日発表した2月の伸銅品生産（速報値）は半導体関連の需要が振るわず、前年同月比3・1%減の6万5639トと3カ月連続で前の年を下回った。

エレメント

3つの柱

▽「やっ」とある程度の形が出来上がった」と安堵するのは、大陽日酸常務執行役員の谷沢博幸さん。高圧ガス関連の装置などを設置した、社員向けの研修施設を設けた。



谷沢さん

▽：自動化などの進展で設備トラブルは減っている一方、オペレーターが設備に触れる機会が少なくなっている。「実際に触りながら勉強できれば良い」と思った」と説明する。

▽：危険な状況を体感できる仮想現実（VR）や、座学の環境も整えた。「保安力と技術力の向上、産業事故と労災の撲滅、技術伝承の三つの柱を進めたい」と力を込める。

素材・ヘルスケア・環境